

下総台地の環状ブロック群：最新の研究成果から

(公財)千葉県教育振興財団

上席文化財主事 新田 浩三

1. はじめに

下総台地の環状ブロック群は、53 遺跡 71 基が確認されている(酒々井町 2019)。時期的変遷は、①X 層上部段階：御山遺跡。②IX 層下部段階：南三里塚宮原第 1 遺跡、池花南遺跡、東峰御幸畑西遺跡エリア 3、市野谷芋久保遺跡、関畑遺跡。③IX 層中部段階：墨古沢遺跡、小山台遺跡、四ツ塚遺跡、東峰御幸畑遺跡エリア 2、東大野第 2 遺跡、泉北側第 3 遺跡。④IX 層上部段階：東峰御幸畑遺跡エリア 1、原山遺跡第 II 文化層。4 つの段階の変遷が窺える。大型の環状ブロック群は③IX 層中部段階に多い。

2. 環状ブロック群の最新の調査成果

環状ブロック群の遺跡は次の 6 つの地域に遺跡群が形成されている。各地域の主な遺跡を列举し、そのなかで最新の調査成果の遺跡を紹介する。

(1) 印旛沼周辺の遺跡群

環状ブロック群の遺跡が最も多い地域で、酒々井町墨古沢遺跡、印西市泉北側第 3 遺跡・角田台遺跡・瀧水寺裏遺跡。

墨古沢遺跡 (第 1 図)

平成 11・12 年度に酒々井パーキングエリア拡張工事に伴う調査で、環状ブロック群の西側が調査され、平成 27～29 年度に東側の調査が行われた。西側の調査成果をもとに、環状ブロック群集落形成を考察した結果、複合一体型のモデル提示をした(新田 2005)¹⁾。複数の扇状ブロック群を構成要因として、集団をまとめ上げるために、中心部を中核として求心的作用によって大規模な環状ブロック群が形成されたと推察した。今回の特筆される成果は、中央部の凹地を選地し、複数の集団が凹地を目印(ランドマーク)として集結した可能性が高いといえよう。

(2) 成田空港地区とその周辺の遺跡群

成田市東峰御幸畑西遺跡・南三里塚宮原第 1 遺跡。

(3) 四街道市内黒田・物井地区の遺跡群

四街道市池花南遺跡・御山遺跡。

(4) 柏市・流山市の遺跡群

柏市中山新田 I 遺跡・小山台遺跡・大松遺跡・原山遺跡、流山市市野谷芋久保遺跡。

小山台遺跡 (第 2 図)

IX 層中部から円環部・中央部・外部の 3 つのブロック群が検出された。長径 70m×短径 50m の大規模な環状ブロック群が形成されている。総計 1,672 点の石器が出土し、14 か所の集中地点が検出された。約 50m 離れた接合資料が数個体、多数のブロック間接合資料が見られた。接合状況をブロックごとに分析すると、円環部・中央部・外部の 3 つのエリアに核となるブロックがあり、この接合核ブロックを経由して、集落全域に石器が行きわたるような接合状況を示していることが窺えた(新田 2017)²⁾。

(5) 山武市の遺跡群

山武市四ツ塚遺跡・八幡神社北遺跡。

四ツ塚遺跡 (第 3 図)

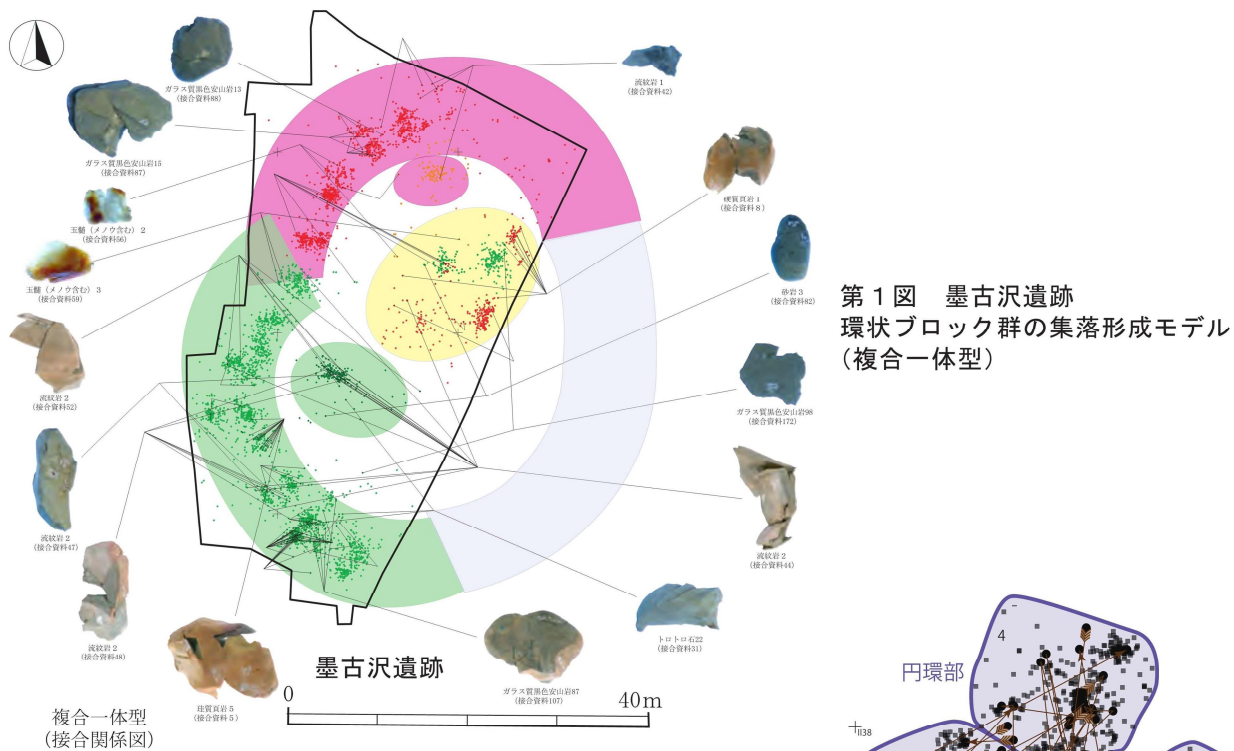
IX 層中部から総計約 4,400 点の石器と 74 か所のブロックが検出された。圏央道・東金道路二期・調子連絡道の 3 つの事業により発掘調査され、それぞれの事業からブロックが検出された。なかでも、東金道路二期の調査区域では、環状ブロック群が 2 基近接して検出され、環状ブロック群間の接合資料がみられた。環状ブロック群の石器群中に、遠山技法によるものもみられる。広範囲に本段階の石器群が同じ等高線上にブロック群が形成されていることが窺えた(新田 2020)³⁾。

(6) 市原市・袖ヶ浦市の遺跡群

市原市草刈六之台遺跡、袖ヶ浦市関畑遺跡。

註(主な参考文献のみ掲載)

- 1) 新田浩三 2005「酒々井町墨古沢南 I 遺跡 旧石器時代編」『東関東自動車道水戸線酒々井 P A 埋蔵文化財発掘調査報告書 1』(財)千葉県文化財センター
- 2) 新田浩三 2017「柏市小山台遺跡 旧石器時代編」『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書 10』(公財)千葉県教育振興財団
- 3) 新田浩三 2020「成田市夜番 I 遺跡・横芝光町遠山天ノ作遺跡・横芝光町四ツ塚遺跡・山武市四ツ塚遺跡」『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書 36』(公財)千葉県教育振興財団



第2図 小山台遺跡
ブロック間接合と剥離順序

● ブロック間接合した遺物点
■ その他

※接合線はブロック間接合のみを示した
※ブロックの枠線が太いものは「接合核ブロック」を示す

矢印は剥離順序を示す
● 最初の剥離遺物点
● 最終の剥離遺物点

